

ブツカット Buts Cut

ブツ取り用超硬合金スクレーパー



1mmのブツを取るのに、
1mmしか傷つけない。

■何故、ブツ取りカッターが必要なのか？

塗装業界において、塗装後の塗膜研磨作業は、肌を調整する場合を除いてブツやタレを除去するために行われます。ブツは、異物が原因で、塗膜面に付いた突起物です。ブツやタレを除去する方法は、研磨用のサンドペーパー、研磨用ブロックなどを用いて行う、「上から順番に削り取る方法」と、カッター刃やスクレーパーなどを用いた、「根元から切り取る方法」とがあります。

■スクレーパータイプの長所

- ① 研磨面積を少なく出来る=研磨用ペーパーや研磨用ブロックなどと違い、ブツを切り取るために大きなストロークが必要ないため、仮に後処理に研磨用ペーパーを用いたとしても圧倒的に小面積にしか傷つけないこととなります。したがって、次の工程であるバフ研磨の面積が少なくて済みます。同様の理由で、ブツの周辺だけ肌が無くなって「ツルツとする」ことがありません。
- ② ブツの除去後の山が残りにくい=「根元から切り取る方法」ですからブツの山が残り難いと言えます。

■従来のスクレーパータイプの欠点

- ① 刃部が直線のため、刃が目標としていたところに当たり難かったり、逆R部に付いたブツに当たらなかつたりしました。
- ② 「刃部が鋭利過ぎて、刃が塗膜に刺さって食い込んでしまい、不要な深い傷を付けてしまう。」という欠点がありました。

■Buts Cutの特徴

超硬合金素材を用いることでファインセラミックスと同等の硬さを実現しながら従来のスクレーパータイプの欠点を次の方法で回避しました。

- ① 刃部に丁度よい程度のRを設けることで、狙った場所だけの突起を的確に除去できます。直線、大R(R100)、中R(R25)、小R(R5)を設けて、如何なる形状上に付いたブツでもカットできます。
- ③ 素材から製造することで、バインダーであるコバルトの量を操作することで、刃そのものの鋭利性をコントロールし、更に裏面は精密なバリ取りと若干のブラスト研磨処理によって、塗膜への食い込みを無くし、作業者の好みの切れ味を表・裏で使い分けられる様にしました。
- ④ ディティリング業で要求される塗装粉除去の作業において、鉄粉除去の方法で除去できない様な大きな塗装粉を塗膜面を傷つけることなく除去できます。
- ⑤ その他の便利付属品
皮ケース…不用意にぶつけて、自動車などに傷を付けたくないため、落とした時に割れないように皮ケースが付属します。
紐とストッパー…Buts Cutを首から掲げるための紐。作業時に顔と塗膜面の距離を適当に保つために紐の長さを調節することの出来るストッパー。

